



Annual Report 2020

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都

もくじ

理事長ごあいさつ	… 2 P
活動理念	… 3 P
FaSoLabo 京都 1 年のあゆみ	… 4 P
事務局	… 6 P
社会的理解	… 8 P
当事者支援	… 1 4 P
支援者支援	… 1 8 P
組織	… 2 0 P
中長期計画	… 2 2 P
2020 年度財務諸表	… 2 7 P
会員募集	… 2 8 P



理事長 ごあいさつ

いつも、私たち FaSoLabo 京都の活動を支援してくださいまして、ありがとうございます。

2020 年度の事業報告をお届けします。

本法人は、2005 年 4 月に任意団体としてスタートして以来、多くの方々に支えられながら、食物アレルギーの子どもと保護者や家族を支える活動に取り組んで来ました。2014 年度からは、「地域子育て支援拠点事業」による「常設の居場所」として、地域の子育て世帯を支える活動を重ねてきました。2017 年度には、事業内容の一層の充実を図って、法人名称を「アレルギーネットワーク京都びいちゃんねっと」から「FaSoLabo 京都」に変更しました。いつも支えてくださっている皆さんの思いを大切にしながら、これからも様々な事業に取り組んでいく所存です。

コロナ禍のなかで思うように活動が出来ない 2020 年度でしたが、それでも子ども達や保護者の方々の思いに励まされ、支えられながら、事業を行ってきました。この報告書にありますように、感染予防対策に配慮して、また事業によってはオンラインも活用しながらの各種イベントや講座の開催でした。そのような取り組みを通して、「当たり前」の尊さと大切さをあらためて学んだ 1 年だったと思います。

これからも、食物アレルギーをもつ子どもと家族が当たり前、安心して暮らせる環境づくり、そして一人ひとりの子どもが健やかに育つ、住みよい地域や社会づくりに向けて、皆さまと力を合わせて取り組んでいきたいと思ひます。

皆さまの一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2021 年 4 月

認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都

理事長

空閑 浩人

FaSoLabo 京都 の 活動理念

事業・活動

食物アレルギーという言葉は、今では知らない人も少なくなりました。

しかしながら、食物アレルギーについての正しい知識や社会的背景については、十分周知されているとはいえません。生活面や精神面への支援の体制は、現在いずれの社会制度の中にも、もりこまれておらず、社会的排除の状況にあります。食物アレルギーの子どもを抱えた家族には、その家族にしか解らない悩み・苦しみがあるのです。そこで私たちは、広く社会に食物アレルギーのこと、食物アレルギーの子どもや家族の生活や思いを知ってもらうことで、当事者の生活の質の向上を図れることを目指して事業・活動を行っています。

1. 食物アレルギーの子どもとその家族の QOL（生活の質）の向上
2. 食物アレルギー そしてその子どもや保護者の生活や思いの周知

FaSoLabo 京都 へ

「Fa」 は food allergy（食物アレルギー）

「So」 は social work（ソーシャルワーク）・sower（種をまく人）

「Labo」 は Laboratory（研究所）

新法人名称には、食物アレルギー支援の将来へのたくさんの思いや願いが込められています。

「共に」考え・変えていく活動

食物アレルギーの子どもや家族、専門医・エドゥケーター等医療関係者、社会福祉士等ソーシャルワークの専門家、子育て支援者など多様なステークホルダーが、地域社会を「共に」考え・変えていく活動を当法人の活動主体であることを中長期計画として明確化しました。



私たちは、活動理念に基づきミッション達成のために、社会的理解・当事者支援・支援者支援の3つの柱で事業・活動を実施しています。それぞれの事業は、個々に実施するのではなく、相互に関わりあいながら進めています。

FaSoLabo 京都 1年のあゆみ

2020年4月1日 ~ 2021年3月31日

● 社会的理解 ● 当事者支援 ● 支援者支援 ● 組織



新型コロナウイルスによる緊急事態宣言

4/7 に発出された緊急事態宣言に先立ち、京都市では、3/5 から市内のつどいの広場は全箇所が閉所になりました。6/22に、安心して利用していただけるように対策を講じた上でつどいの広場を再開しました。→P7

あおぞらプロジェクト

4団体と協働で京都府の子育て環境作りの提案を目的として官民の連携や再資源化のための様々な取り組みを行いました。→P18,19



Ban! ばん! パーン! と伴ごはん

5/28 (木) 10:30~11:30

参加: 5組 7名

伴亜紀先生に「じゃがいも餅」のレシピを紹介していただきました。※初のオンラインイベントの開催でした。



石井食品(株) ミートボールクッキング

6/4 (木) 10:30~11:30

参加: 5組 9名

サポーター企業の石井食品(株)に、「かぼちゃのミートボールコロッケ」の作り方を教えていただきました。

アレルギーフリー水無月を作ろう

6/10 (土) 10:30~11:00

参加: 4組 9名

料理上手なスタッフに「水無月」の作り方を教えてもらいました。「まもつぷ」を通じて、京都府内の子育て世帯からの参加を募りました。

※「まもつぷ」はきょうと子育て応援パスポートアプリです。スポット情報や、救急医療機関情報などを搭載しています。



ばーばのおやつ

6/27 (土) 10:30~11:30

参加: 4組 7名

京田辺市の地域コミュニティ「ばーばの手」の有地淑羽先生・高畑直美先生に「いばらだんご(かしわ餅)」の作り方を教えていただきました。



乳幼児のスキンケア講座

7/16 (木) 13:30~14:30

参加: 4組 9名

12/3 (木) 10:30~11:30

参加: 6組 11名

各回小児アレルギーエドゥケーターの馬場知美先生をお招きし、スキンケアについて教わりました。



食物アレルギードリームプランプレゼンテーション

8/8 (土) 13:30~17:00

参加: 44名

食物アレルギーの子どもたちの夢や希望を社会に発表するプロジェクトを行いました。→P14

夏祭り(防災お菓子ポシェット)

8/29 (土) 10:30~12:00

参加: 5組 7名

ゲームをしたり、食物アレルギーに配慮されたお菓子セットのおやつを使って防災お菓子ポシェットを作ったりしました。

→P9



サポートデスクのリフォーム

9/8 (火)

事務所のフローリングスペースをリフォームしました。思春期以降の食物アレルギー児たちが集まれる場を作るために助成金を申請しました。コロナ禍によってリモートイベントが続いているため、まだお披露目はできていませんが、対面イベントの再開をもうしばらくお待ちください。

デコ巻きずし

9/19 (土) 10:30~11:30

参加: 4組 11名

管理栄養士でデコ巻きずしマイスターの山岡明日香先生に「デコ巻きずし」の作り方を教えていただきました。



食物アレルギー相談援助研究会

子どもの食物アレルギー/食物アレルギーと相談援助

9/27 (日) 13:20~14:50 参加: 23名

子どものアトピー性皮膚炎/子どものスキンケア

11/8 (日) 9:20~12:30 参加: 17名

食物アレルギーの子どもや保護者への相談援助・対人援助をテーマに講座を開催しました。





お芋ほり&野草観察会

10/24 (土) 10:00~12:30

参加: 23組 37名

京田辺市の協働団体「ばーばの手」とお芋ほりと野草観察をしました。→P13



食物アレルギー 学校生活について

11/13 (金) 10:00~12:00

京田辺市 参加: 15名

12/12 (土) 10:30~12:30

長岡京市 参加: 12名

1/9 (土) 10:00~12:00

京都市 参加: 16名

各回講師をお招きし、食物アレルギー児の入学準備や学校生活についての勉強交流会を開催しました。→P16

子育てサークル・当事者会等のファシリテーション研修

11/26 (木) 10:00~12:00 参加: 6名

長年、親の会を運営してきた社会福祉士の中村有美先生から、親の会や当事者会のファシリテーターをする上での心構えや工夫について学びました。

Ban! ばん! バーン! と伴ごはん

11/28 (木) 10:30~11:30

参加: 5組 11名

伴亜紀先生に「れんこんバーグのミートローフ」と「わらび餅のクリスマスゼリー」のレシピを紹介していただきました。



京都市学校保健会 中京支部研修会

12/4 (土) 15:30~17:00

参加: 33名

各学校医・学校長・園長・養護職員・教職員の方に向けて、食物アレルギーの子どもたちの学校生活についての研修を行いました。→P12

クリスマスパーティー

12/19 (土) 13:30~15:00

参加: 7組 18名

マジックショーやゲームを楽しみ、「クランチクリスマスツリー」を作りました。



パティシエクラブ

1/23 (月) 13:30~14:30

参加: 3組 6名

管理栄養士の山岡明日香先生に「熊本製粉(株)のグルテンフリーケーキミックス粉を使ったクッキー」の作り方を教えていただきました。→P15



学生インターン

NPO 法人ドットジェイピーより、2名の学生がインターン生として2ヶ月間当法人に参画してくれました。→P20

ティーンズミーティング

2/20 (土) 14:00~16:30 参加: 9名

3/6 (土) 14:00~15:30 参加: 11名

10~20代の食物アレルギー当事者が集まり、様々な悩みや考えをシェアし、よりよい生活について考えました。→P17

H₂O サンタ NPO フェスティバル

2/23 (火) ~3/1 (月)

一般社団法人 H2O サンタ主催のイベントに参加しました。阪急うめだ本店にてブースを設け、当法人の日々の活動を展示し、一般の方に FaSoLabo 京都を知っていただける場となりました。



食物アレルギー相談援助研究会

相談事例検討会

2/28 (日) 13:00~16:00 参加: 16名

アレルギー専門医や社会福祉士が、つどいの広場・児童館・学校・保育園・幼稚園・ママサークル・患者会などでの相談事例を持ち寄り、対人援助について検討しました。



子ども会議

3/26(金)・31(水) 10:00~11:00

参加: 26日5組7名、31日4組5名

子どもたちが主役となって企画・準備・運営をする子どもお店やさんごっこ準備を行いました。保護者の付き添いがない中で、子ども達が主体的に意見を出し合い、アレルギーに配慮したお菓子を試食したり、ゲームを考えたりしました。



【新体制始動】

子育て中の世代が中心となり、サポートスタッフや学生スタッフと力を合わせて、新体制で事務局を運営しました。

新しい体制になって

「こういう取り組みがあったら食物アレルギーの子どもやその保護者にとって良いのではないか」

「食物アレルギーの社会的理解を進めるために新しいアイデアがある」

など活発な意見を出しあえる一方で、「やりたいこと」「やるべきこと」のバランスに戸惑ったり、運営の中心を担う3人それぞれが子育てで真っ最中のため家庭との両立なども、全員で「できること」を試行錯誤した1年でした。

また、サポートデスクに併設のつどいの広場で、利用者に更に寄り添った支援ができるよう、スタッフ研修の機会も増やしました。今後も当事者の気持ちやニーズに寄り添った食物アレルギーに配慮されたつどいの広場の運営や、参加しやすいオンライン講座の実施を行い、地域の他団体の協力を得ながら、食物アレルギーの社会的理解を進めていく活動に力を入れていきます。

○新体制スタッフ



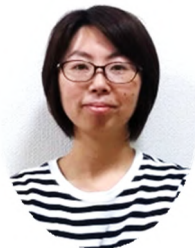
栗絵美

スタッフそれぞれの得意分野を活かして、皆さんのお役に立てよう努めています。



伊吹睦子

親子に安心して過ごせる場所を提供し、一緒にお子さんの成長を見守ることができるのが嬉しいです。



今川麻紀

食物アレルギーの有無に関わらず、子どもが笑顔でいられる社会への一助になれるよう心掛けています。

○サポートスタッフ



社会福祉士

小谷智恵

事務局スタッフそれぞれが補完し合いながら円滑に運営できるよう、これまでの経験を活かして新体制を後方支援しています。FaSoLabo 京都がさらに居心地のよい居場所になるよう、パイプ役としてサポートしていきたいと思います。



三好英

○学生アルバイト



鷺裕一



鋤崎理子

○学生ボランティア



三宅祐香

新型コロナウイルス対策でチームカアツ

前年度 3 月より京都市からの通達を受けて閉所したつどの広場に合わせ、食物アレルギーサポートデスクの閉所も 6 月 22 日の再開まで 3 カ月以上の長期間になりました。この間 4 月 5 月はスタッフも在宅ワークになりました。うち 1 名は 6 月以降も在宅ワークを続けました。そのような状況下で、閉所期間中だけでなく再開以降も、新型コロナウイルスとともに新しい活動の進め方をスタッフ全員で試行錯誤した 1 年でした。その結果、スタッフがそれぞれの役割をこれまで以上に理解し、今何をすべきかを考え、共有し、助け合う体制づくりができました。また、新型コロナウイルスをきっかけで立ち上げたメッセージャーグループは、スタッフ全員がチームとして活動をリアルタイムで進める大きなツールとなりました。

▶閉所期間から再開に向けての動き

- 4 月 ・スタッフのメッセージャーグループを立ち上げ、スタッフ間で情報の共有
- 5 月 ・オンライン（Zoom）での取り組みを始め、自宅待機中の親子をサポート
- 6 月 ・月に一度のスタッフミーティングのオンライン化
 - ・開所に向け、感染予防対策に基づいた運営について検討を重ね、運営マニュアルを作成、スタッフ間の共有を図る
 - ・運営マニュアルに基づき、来所者向けの利用ガイドの作成、室内レイアウトの変更、おもちゃ等備品の整理など、ソフト面・ハード面を整備し、新しいスタイルで再開

尚、計画していたイベントは、再開後もすべて Zoom 開催に変更し、Zoom 操作に不慣れな利用者に向け個別の対応を進めました。

サポートデスク・つどの広場ご利用にあたってのお願い

皆さんに安心してご利用いただくために、以下の点にご理解・ご協力をお願いします

利用時間・利用方法が変わりました！ 予約制になります（三密回避のため）

- 期 日 月・水～土（火・日・祝はお休み） ⇒ これまで通りです
- 時 間 午前／10：00～12：00 ※12：00～13：30は決着・決着を行います。
午後／13：30～16：00
- 定 員 午前・午後 各 4 名まで（大人・子どもも含めて）
- 予約方法 利用希望日前日までに **075（252）5088 まで電話で予約**（電話受付は月・水～土 10：00～16：00）
※予約できるのはご自身の分だけ。お友達との予約はできません。
※種があれば、当日の電話でも予約できます。
※来所時に次回予約ができます。
※キャンセルの場合は、必ずご連絡下さい。

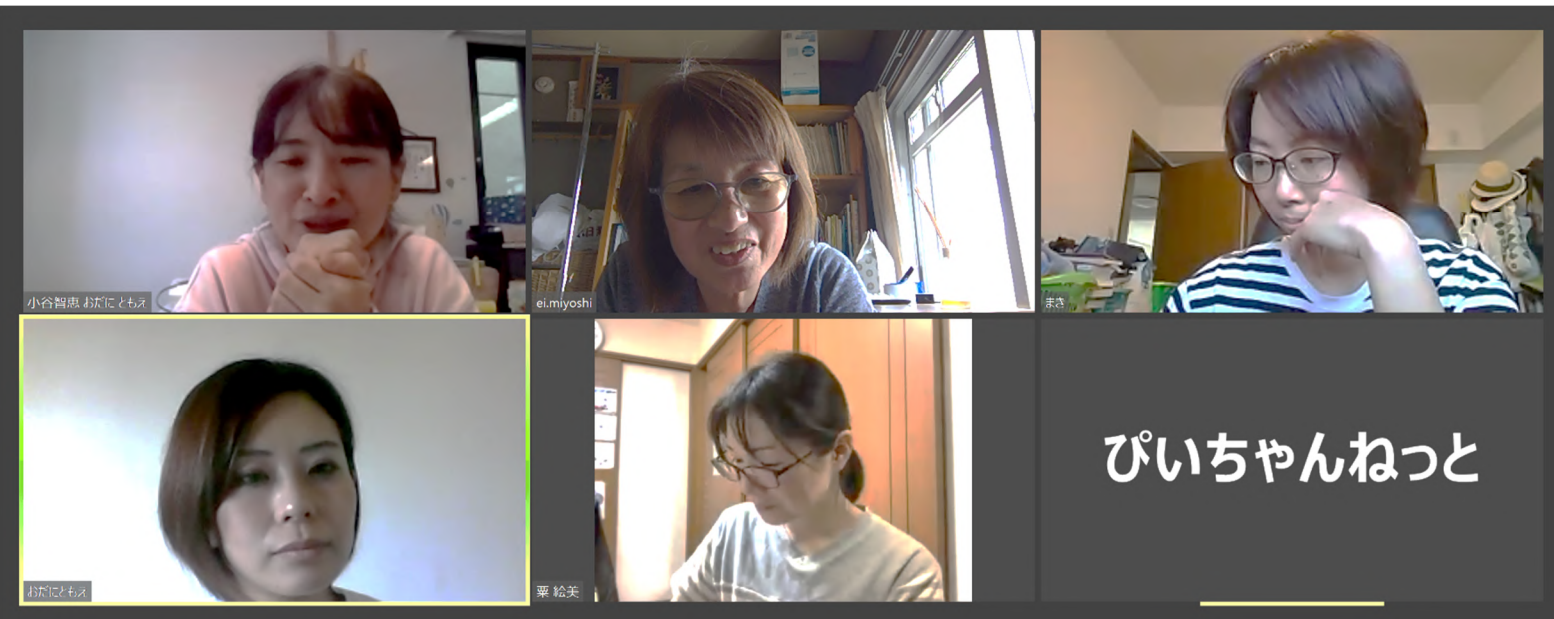
予約日に来所するとき・・・

- ご持参ください ①マスク（大人用） ②バスタオル（お子さんが寝る時下に敷くため）
③おむつ替えシート（交換等で利用可能。互換のシートは一部販売します）
- 来所前に自宅で、大人／お子さんの検温をお願いします
出発の中で発熱の症状（咳・鼻水・発熱（37.5以上）下痢など）、疲労倦怠、発疹などの症状のある方はご利用をお控えください。

サポートデスク・つどの広場びいちゃんについたら・・・

- 入り口で
⇒親子とも検温（スタッフが検温機で行います）⇒体調確認
※検温で37.5以上あった場合は、ご利用いただけません。ご了承ください。
⇒京都市新型コロナウイルス感染症対策サービスQRコード読み取り ※必ずご利用ください。
⇒手洗い・手指消毒・うがい・コロコロで食べご飯の除去・大人のマスクの着用
※マスクを脱ぐ場合は必ずお声掛けください。
⇒利用名簿の記入
- 遊んでいるとき
*ソーシャルディスタンス・・・なるべく人との間隔を空けて下さいね（目安は2M）
*おもちゃ・・・当店は受付での貸与方式にします。
お返りの際にお声ください。保護者の方は消毒不要です。スタッフが消毒します。
*トイレ・・・使用後は設備の除菌スプレーで便座の消毒をお願いします

以上の点をご確認のうえ、別紙の同意書（初回のみ）②利用者票の記入をお願いします。



▲閉所期間中も、自宅待機しながら、オンラインでスタッフミーティングを行いました

地域で育つ子どもたち ～食物アレルギーと共に～

食物アレルギーは食事だけでなく、日常生活においても制限を受けることがあります。しかし、食物アレルギーのこと、またその生活について十分に周囲から理解されることはまだ難しい状況にあります。私たちが目指す社会的理解の活動は、地域の親子、子ども・子育て支援者など社会全体が対象です。子どもに伝統や季節の移り変わりを伝える行事は、保育園や幼稚園、学校、自治体など様々なコミュニティで行われています。そこに飲食が伴う場合、食物アレルギーの子どもたちは参加することが難しくなってしまう。しかし、アレルギーフリーのおやつを用意するなど、ちょっとした配慮があれば食物アレルギーの有無に関わらず、一緒に参加し、一緒に食べて楽しみを共有することができます。そのような配慮が全国に広がり、全ての子どもたちが自分の住む地域で心身ともに健やかに育まれることを願い、日々活動しています。

地域社会との接点

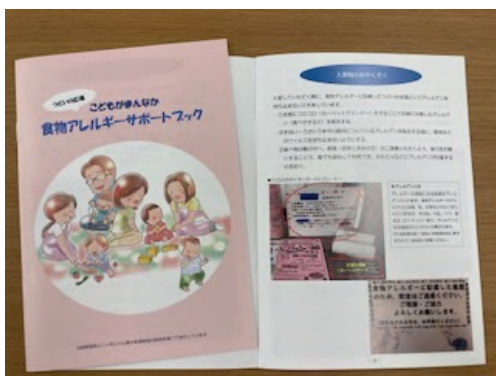
つどいの広場

利用者 307組 789人

食物アレルギーの親子と地域の親子の接点として、週に5日開所しています。アレルゲン（アレルギー症状を引き起こす原因となる物質）を持ち込まないための入室時の取り組みや食物アレルギーサポートブックの配布は、食物アレルギーについて知ってもらうきっかけとなっています。

今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため、人数制限を設け、換気や消毒を徹底し、安心して利用してもらえるように努めました。

食物アレルギー相談は、子育て中の保護者に気軽にお答えする事で、正しい理解や情報共有に繋がっています。



▲2019年度に発行した食物アレルギーサポートブック。食物アレルギーに配慮したつどいの広場の運営方法や、市販のアレルギーフリーのおやつの紹介、多くの保護者から寄せられるQ&Aなどを掲載しています。



▲手遊び・絵本の読み聞かせは、スタッフと一緒に地域の親子が交流する微笑ましいひととき（年49回）・手袋シアター（年15回）も好評

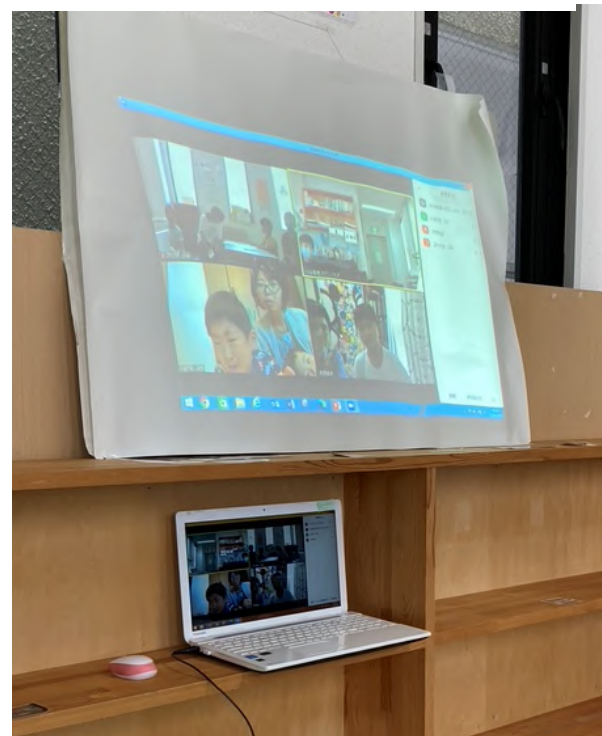
季節の行事を一緒に楽しむ

夏祭り 8/29 (土) 年長以上対象 参加 7名

講師：(一社) おいしい防災塾 西谷真弓氏

新型コロナウイルスの影響でオンラインと会場を組み合わせた新しいスタイルで開催し、連想ゲームや色紙を使った福引など、参加者全員が楽しめるよう工夫しました。防災お菓子ポシェット作りでは、京都生活協同組合の食物アレルギー対応の地蔵盆お菓子セットを活用し、避難する時の注意点などを学び、防災について考えるきっかけとなりました。子どもたちの夏の楽しみがどんどん中止される中、安全に楽しく開催できる方法をスタッフ全員で何度も検討し、企画の見直しをしました。様々な状況下でも「子どもがまんなか」を大切に活動となりました。

▼みんながパソコン画面で繋がり、夏祭りを楽しみました。



食物アレルギー啓発ポスター（地域交響プロジェクト交付金事業）

食物アレルギー児の暮らしを考える会 長岡京（以下 長岡京の会）との協働事業です。毎月1テーマずつ長岡京の会のメンバーが何度も話し合っ、地域の人に食物アレルギーの子どもやその家族に関心を持ってもらえるようにポスターを作成しました。当法人は、その監修を行いました。相手に伝わる構成やメッセージになるように苦心したことで、京都府のみならず北海道から沖縄まで掲示の輪が広がり、それに伴って新たなつながりが生まれました。

この事業は『令和2年度地域交響プロジェクト交付金』助成事業です。



▲『ハロウィン』…食物アレルギーの有無に関わらず、ハロウィンを楽しもう。そのためのできる工夫などを長岡京の会が SNS で紹介し、当法人からは公的な子育て支援施設に掲示依頼をしていきました。ポスターがきっかけで、アレルギー配慮のハロウィン実施につながった事例もありました。



▲『防災・炊き出し』…被災時の炊き出しについて、原材料をそのまま表示するという、ひと工夫で食べられる人がいることを広く伝えていきました。食物アレルギー関係の団体にとどまらず、日本各地の防災活動を行う団体からの問い合わせが相次ぎ、輪が広がりました。



▲『一緒に食べられるかな？』…長岡京の会の当事者メンバーから希望する声が多かった「原材料表示を見せてほしい。でも言いづらい」の声をポスターにしました。食物アレルギーの無い子どもの母親たちに忌憚のない意見をもらい、当事者と当事者でない同士の率直な意見交流につながりました。



▲『一緒に考えよう』…これまでのポスターと異なり、食物アレルギーの子どもの保護者を対象に、地域の子育て支援者が共に考えるから安心してほしいというメッセージを伝えました。普段、つどいの広場等を利用する乳幼児の保護者の意見を反映して作成しました。



▲『子どもの気持ち』…食物アレルギーの当事者というと、保護者に焦点が当たりがちですが、子どもこそが当事者です。その子どもの考えや気持ちをよく聞き、子どもを真ん中に考えることを発信しました。作成にあたっては、7歳～11歳の食物アレルギーの子ども4名が意見を出して協力してくれました。

「こどもがまんなか」の支援へ

大人が見ている世界と子どもが見ている世界は異なっていると言われることがありますが、食物アレルギーにおいても同様のことが言えるのではないのでしょうか。大人が良かれと思ってやっていたことが実は子どもにとっては大きな負担になっていた！ということが起きないようにするには、子どもの本心を探るしかありません。大人は子どもにどのように手を差し伸べたらいいのか、子どもは大人にどのようにしてほしいのか、子どもの数だけ答えがあるはずです。食物アレルギーの子どものとその保護者の孤立を防ぐには、周囲のサポートが必要不可欠であるため、これまでにあった実例をヒントに私たちは答えを探し続ける必要があると考えています。

京都市学校保健会「中京支部」研修会

12/4 (金) 15:30~17:00 参加: 33名

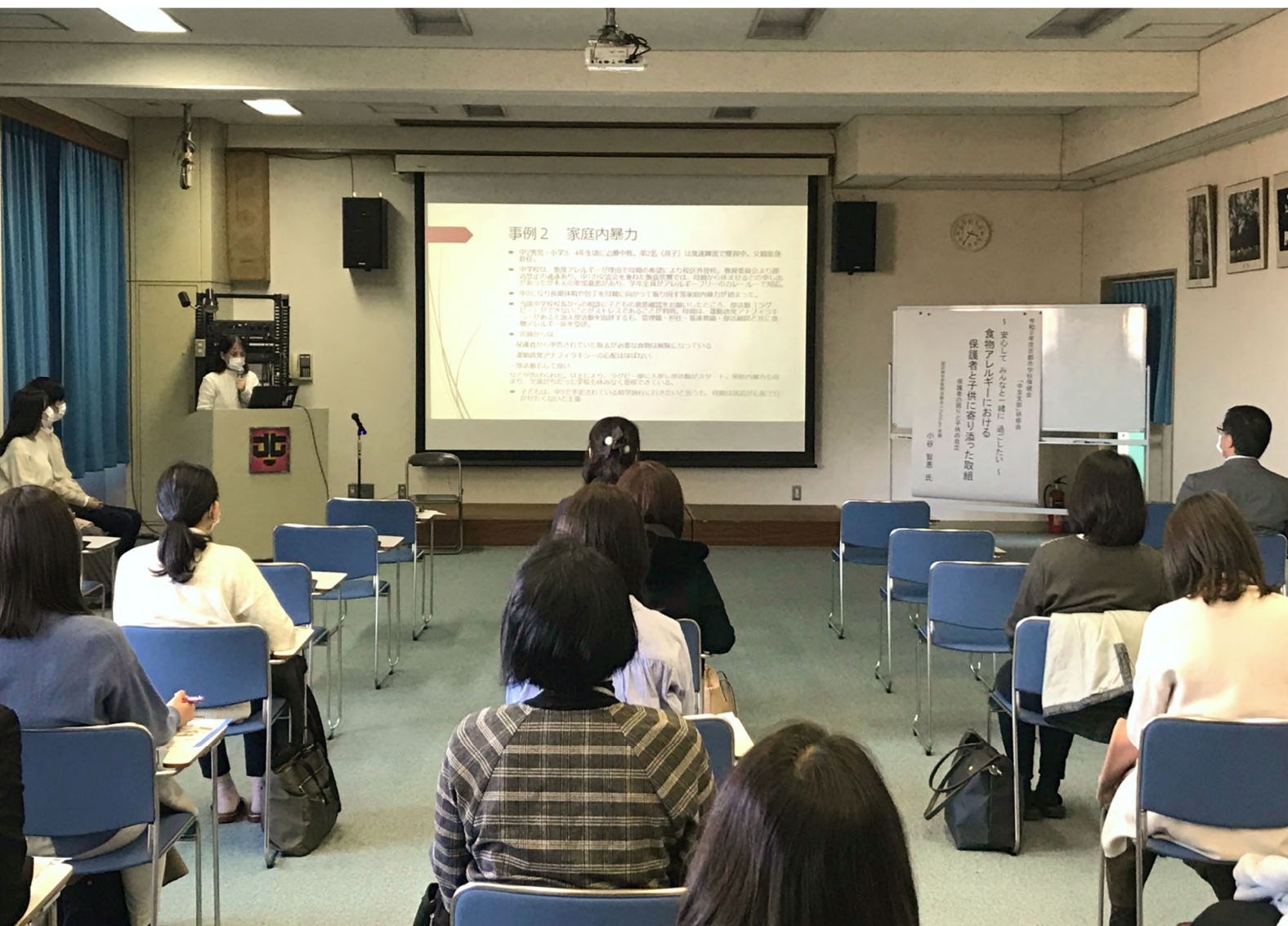
会場: 京都市立北野中学校 第3多目的室

内容: ~安心して みんなと一緒に 過ごしたい~

食物アレルギーにおける保護者と子供に寄り添った取組 保護者の困りと子供の自立

講師: 小谷 智恵・鷲 裕一・鋤崎 理子

小谷が行っている講演活動に、自身も食物アレルギー当事者の鷲・鋤崎（共に学生アルバイト）がゲストスピーカーとして参加しました。大学生の2人は、幼い頃を振り返って、嬉しかったことや辛かったことなどを語り、保護者と学校の話し合いだけで物事が進んでしまいがちな幼少期においても、常に中心にいるのは「当事者である子ども」ということを念頭に置いて欲しいと伝えました。



おもほり&野草観察会（地域交響プロジェクト交付金事業）

地域の団体と協働により、自然体験と親子交流を通して、食物アレルギーをゆるやかに知ってもらうことを目的に行いました。ばーばの手が企画・実施するおもほり体験として毎年人気の企画ですが、3年目の今年は、FaSoLabo 京都としては今年度唯一の対面によるイベントになりました。ばーばの手で、できるかぎり丁寧な新型コロナウイルス対策やプログラムを検討いただき、大人数の参加でも安心できる内容にして実施することができました。京都子育て応援アプリまもっぴ等で食物アレルギーの有無を問わず、広く一般に募集した結果、FaSoLabo 京都からは半数が初利用の参加者となり、食物アレルギーをゆるやかな形で伝えることができましたといえます。

10/24（土） 10:00～12:30 参加 大人 23名 子ども 37名

協働団体：ばーばの手

講師：湯川幸子氏、伊藤千恵子氏（やましる里山の会）、高畑直美氏（ばーばの手）

地域の親子と京都市内からの親子がグループに分かれ、ばーばの手が苗から植え栽培したさつまいものおもほり、講師と畑周辺をめぐり秋の野草を探すネイチャーゲームを楽しみました。収穫した後は食物アレルギーの有無に関わらず楽しめる秋の味覚焼き芋とさといも五平餅を試食しました。コロナ禍で外出を制限されていた親子が食物アレルギーの有無を気にせず、自然の中で交流する機会になりました。



▲親子で土に触れ、自然の力を体感。参加者同士が教え合い、助け合う姿がありました



▲食物アレルギーにやさしい自然の味の食体験をしました

食物アレルギードリームプランプレゼンテーション 8/8(土) 視聴者44名

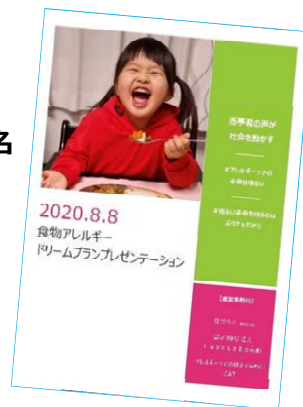
主役は食物アレルギーの子どもたち

食物アレルギーであるからこそ、社会に伝えたいこと

食物アレルギーであるからこそ、社会にできること

食物アレルギーだから叶えたいことはなに？

食物アレルギーだから描く夢はなに？



プログラム

- ✳ 運営事務局挨拶
- ✳ ドリームプランプレゼンテーション
 - 1・佐々木あんり お弁当改革プロジェクト
 - 2・伊藤高帆 アレルギーっ子の宿泊行事をサポートしたい
 - 3・木村真弓 アレルギーの人でも行けるカフェを作りたい
 - 4・楠井花歩 みんなちがってみんないい
 - 5・木村嘉宏 アレルギーによるいじめの無い世界へ！！
 - 6・多賀彩 農家直結食育レストラン
 - 7・石井陽生 ベジタリストチューパー
- ✳ 協賛企業様 講演・プレゼント贈呈



食物アレルギーの子どもたちが、自身の体験を通して描いている「夢」や「希望」を、広く社会に伝えるプロジェクトを(株)イートイズの細川真奈さん、アレルギーっ子の旅する情報局 CAT の村田愛さんと協働で実施しました。東京会場・京都会場・子どもや大人サポーターの自宅など、対面・オンラインでの6元中継で開催しました。小学生から大学生まで7名の子どもたちの発表は、すべてがとても力強く感動的で、これからの未来は、この子どもたちが創っていってくれると感じました。

順位は競いません

発表は順位を競うものではありません。発表後、協賛企業からそれぞれ内容に寄り添ったプレゼントをしていただきました。

大人サポーターと一緒に

食物アレルギーに携わる事業を始め、さまざまな分野で活躍する「大人」が、パソコンの使い方、プレゼン資料の作り方、発表にむけてのアドバイスや練習など、子どもたちのサポートをしました。



セーフティーネットとしての居場所と繋がり

食物アレルギーの子ども・保護者がつながれるように当事者支援の活動を行っています。ピアサポートの入口であり、「ひとりじゃないよ」を発信するニュースターの発行、常設の居場所であるサポートデスクの運営、防災イベント、ティーンズミーティングなどの活動を行いました。

食物アレルギーサポートデスク

ほっとできる、いつでも集える場所

食物アレルギーの子どもとその保護者の常設の居場所として、相談できる場所、繋がりを感じられほっとできるセーフティーネットでありたいと願って運営しています。今年度は、新型コロナウイルスの感染予防で、オンラインでの取り組みを積極的に行いました。オンラインでも食物アレルギーについて気軽に話ができて、繋がれる大切な場として取り組みました。



こどもパティシエ体験（京都生協子育て支援助成金事業）

1/23（土）13:30～14:30 参加 子ども6名

講師：山岡 明日香先生（管理栄養士）

材料に卵・乳・小麦を使用することが多く、食物アレルギーの子どもたちにとって大変ハードルが高いのが洋菓子作りです。そこで特定原材料7品目（卵・乳・小麦・蕎麦・落花生・えび・かに）を使用しないレシピで、オンライン上で本格的な洋菓子作りに挑戦しました。単に、美味しいお菓子を作って食べられたというだけでなく、食物アレルギーがあっても諦めずに周囲に自分の気持ちや希望を伝え、共に工夫してチャレンジするという経験ができ、今後の子どもたちの自信につながりました。

小学校 入学準備・学校生活 勉強交流会 ※京都府地域交響助成金事業

小学校の入学は、給食・調理実習・校外学習・宿泊学習など、子どもにも保護者にも初めてのことばかりです。初めてでわからないからこそ、不安が大きく膨らんでしまいます。心配・不安が安心に変わることを目的に、京都市・京田辺市・長岡京市の各教育委員会の先生、アレルギー専門医、スクールソーシャルワーカー（社会福祉士）から、アレルギー対応についての説明や保護者からの疑問や不安に応えていただきました。事例紹介では、現在小学1年生の子どもの保護者の方から、入学前の準備期間や現在の様子を実際の経験（子ども本人と一緒に考えながら進めていることなど）を通してお話いただきました。

京田辺市 11/13（金） 会場・オンライン

木戸由花理先生・小畑裕子先生（京田辺市教育委員会）
上原久輝医師（京都田辺中央病院小児科医長・アレルギー専門医）
仙田富久さん（京田辺市スクールソーシャルワーカー・社会福祉士）

長岡京市 12/12（土） オンライン

大江啓子先生（長岡京市教育委員会）
土屋邦彦医師（京都府立医大・アレルギー専門医）
池田和子さん（長岡京市スクールソーシャルワーカー・社会福祉士）

京都市 1/9（土） 会場・オンライン

小山ひとみ先生・岩本先生（京都市教育委員会）
青山三智子医師（京都府子ども発達支援センター・アレルギー専門医）
大上芳仁さん（京都市スクールソーシャルワーカー）

本日のプログラム

- 1. 幼稚園・保育園・学校について
 - 2. 長岡京市の食物アレルギーへの取り組み
大江啓子先生（長岡京市教育委員会）
 - 3. 食物アレルギーへの安全管理等
土屋邦彦先生（日本アレルギー学会専門医）
 - 4. 事例紹介
 - 5. 質疑・交流
大江先生
土屋先生
池田和子さん（社会福祉士・スクールソーシャルワーカー）
- ※進行：小谷篤恵（社会福祉士・FaSoLabo京都理事）

※各市同じプログラムで実施（▲は長岡京市）

※オンライン勉強交流会の様子（▼は長岡京市）



「安全」を最優先としながらも、子どもの育ち（食物アレルギーの受容・自己管理能力）を見守る温かい思いが各教育委員会の先生から伝えられました。保護者の皆さんからは、「相談できる窓口がたくさんあることを知れた」「先生たちがみんな優しい方でほっとした」「具体的な内容が聞いて何をしたら良いかがよく分かった」など、不安が解消された様子がうかがえました。また、スクールソーシャルワーカーが、チーム学校の一員として福祉（生活）の視点で子どもと保護者に寄り添う相談の専門家として配置されていることについても、「初めて存在を知った」と心強い存在に安堵されていました。

自分自身の食物アレルギーとの新しい向き合い方

食物アレルギーの子どもは、親の手から離れ、自律（自立）しはじめる中学生頃を境に、様々な悩みごとや困難に直面する機会が増えてくるのではないのでしょうか。学校給食や部活動、修学旅行、受験、一人暮らし、キャンパスライフ、アルバイト、就活、友人や恋人との過ごし方 etc… 挙げるときりがありません。一人で抱え込まず、同じような境遇の人たちと交流することで、食物アレルギーとの新しい向き合い方を発見できる可能性があります。アレルギーや症状は人それぞれですが、食物アレルギーという共通項の仲間が集うことで何かきっかけが生まれることを願い、イベントを企画しています。あえて保護者の参加を不可とし、難しい年頃の当事者が本音で語り合えるようにしました。

ティーンズミーティング 食物アレルギーの10～20代の高校生、大学生、社会人対象

2/20（土） 14:00～16:30 オンライン開催 参加：9名

ファシリテーター：エマ・クック氏（北海道大学 現代日本学プログラム 准教授/社会人類学博士）

赤城 智美氏（認定 NPO 法人アトピッ子地球の子ネットワーク）

食物アレルギーで嫌だったこと・嬉しかったことを参加者が順番に発表し、現在困っていることがあればその解決方法について話し合いました。食物アレルギー当事者に限定したことで、踏み込んだ内容に関する議論も交わされました。

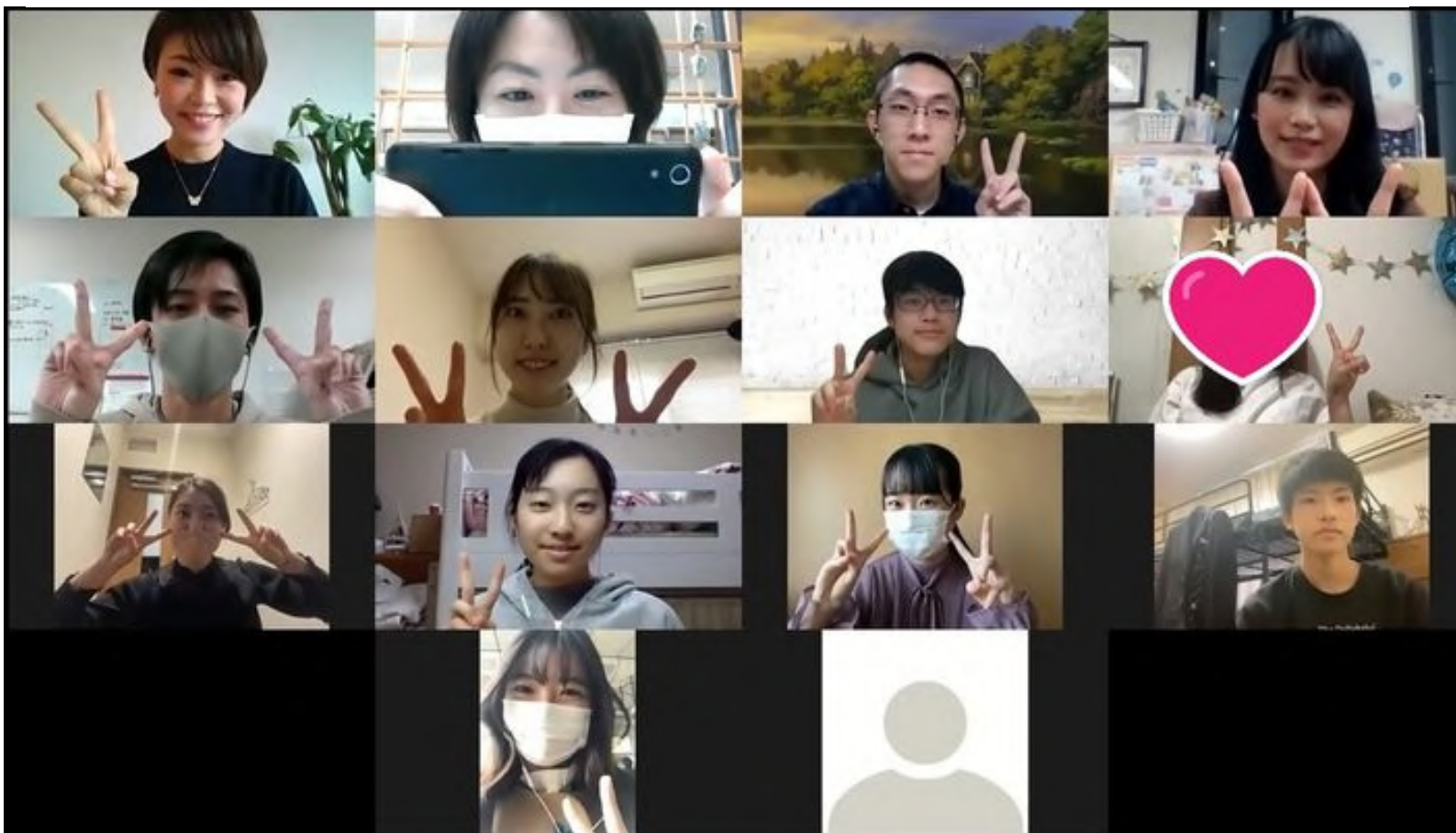
ティーンズミーティング 食物アレルギーの中学生～20代前半対象

3/6（土） 14:00～15:30 オンライン開催 参加：11名

ファシリテーター：細川 真奈氏（株式会社イトイズ 代表取締役/アレルギーナビゲーター®）

食物アレルギーを周りの人に伝えるタイミングや留学に関すること、忙しい学生生活の中での食物アレルギー治療など、この年代ならではの質問や悩みについて、話し合い、情報共有をしました。おしゃべりのお供に、事前にアレルギーフリーのおやつを郵送しました。

▼オンライン開催にしたことで、北海道から福岡まで全国の食物アレルギーの若者が仲間と意見交換をすることができました。（3/6 ティーンズミーティング）



「保護者や子どもを受け入れる施設の方たちに食物アレルギーを正しく知ってもらうこと」を目的に2011年度に京都府内でスタートしたアレルギーの学び舎は、2012年度からは、出張アレルギーの学び舎として「保護者と支援者が共に学び、思いを共有する場」・「地域の支援を地域で行える人材育成」を目指して、京都府内の子育て支援団体等との協働で各地で開催してきました。

子ども・子育て支援団体の再資源化プロジェクト（あおぞらプロジェクト）

（京都府こどもつながり応援隊事業補助金）

2020年度は、年度初めから新型コロナウイルスの感染拡大防止措置による各自治体からの活動自粛要請が発出され、府内各所の子育て支援の場は、休所・活動制限の状況でした。そのため、子どものいる世帯では、閉塞感のある子育て環境で孤立した子育ての状況となり、子どもや家族にとって生活の質の低下が懸念されました。そこで、食物アレルギーの枠を超え京都府内の子ども・子育て支援団体と協働で、緊急事態での必要な子育て支援の資源調査を行い、平時に実施している各団体の子育て支援を、オンライン相談援助等として実施することで、在宅・遠隔での子育て支援の構築・各団体が相互に補完し合える体制の構築を目指しました。これは、新型コロナウイルスの現在だけでなく、被災時の環境でも活用できるものであり、既存の子育て支援を再資源化することに繋がります。

協働団体：特定非営利活動法人おひさまと風の子サロン（福知山市）

特定非営利活動法人グローアップ（南丹市）

特定非営利活動法人子育ては親育て みのりのもり劇場（京都市）

事業内容：

1) 協働団体による地域ニーズの集約

- ・各団体の相談窓口で、子育て世帯の相談ニーズを月ごとに調査・集計し、全団体に共有し学習会を実施（定量調査）
 - 8/17（月）4月～7月の子育て世帯の保護者からの相談内容の共有
 - 9/10（木）8月の子育て世帯の保護者からの相談内容の共有
 - 12/3（木）9月～11月の子育て世帯の保護者からの相談内容の共有
 - 2/15（月）12月～1月の子育て世帯の保護者からの相談内容の共有
- ・きょうと子育て応援パスポートアプリ『まもっぷ』での、閉塞感のある環境で求められるニーズを調査・集計（量的調査）

2) 協働団体が相互に支援スキルを学び合う

- | | | | |
|---|------------------------------|---|---|
| 9/10（木）12名 | Zoomの基本操作勉強会 | } | オンラインでの子育て世帯への相談やイベント開催のサポート
（情報公開し、4団体以外も参加可能とした） |
| 9/24（木）10名 | Zoomの応用操作勉強会 | | |
| 10/19（月） | 協働団体活動紹介（みのりのもり・FaSoLabo 京都） | } | 団体が相互に支援スキルを学び合う |
| 10/26（月） | 協働団体活動紹介（おひさま・グローアップ） | | |
| 1/14（木）・1/15（金）・1/25（月）・2/25（木）・2/26（金） | 協働団体のソーシャルエコマップ作成 | | |

3) 専門分野の学習会（情報公開し、4団体以外も参加可能とした）

- 9/27（土）23名 子どもの食物アレルギーについて・食物アレルギーと相談援助（研究会事業を情報公開し実施）
- 11/8（日）17名 子どものアトピー性皮膚炎・子どものスキンケア（研究会事業を情報公開し実施）
- 11/3（火）20名 SDGs 研修会 ※気になる木J U J Uにて（南丹市：グローアップ運営）
- 11/28（土）8名 食物アレルギー基礎講座 ※すくすく広場にて（福知山市：おひさまと風の子サロン運営）
- 12/11（金）6名 食物アレルギーと離乳食講座 ※すくすく広場にて（福知山市：おひさまと風の子サロン運営）
- 1/21（木）10名 経済支援勉強会（協力：京都市社会福祉協議会）
- 1/25（月）10名 食物アレルギーと入園入学講座 ※すくすく広場にて（福知山市：おひさまと風の子サロン運営）

初の大学生インターン受け入れ

大学生の亀谷美緒さんと西村奈々さんを、インターン生として2か月間受け入れました。これまで食物アレルギーにあまり接点が無かったという2人だからこそ、インターンシップで知った食物アレルギーや食物アレルギーの子どものことを、同じような若者世代に伝えることの重要性を指摘し、その方策としてTwitterでの発信を提案してくれました。インターン期間が終わった後も、当法人スタッフが運用できるようにマニュアルも作成するなど、真剣に取り組んでくれました。

新たな層と一緒に活動に取り組めたことは当法人にも良い刺激になりました。学生の受け入れは、今後も積極的に取り組んでいきたいテーマです。



学生より

FaSoLabo 京都では、たくさんの学生がアルバイトやボランティアとして携わっています。学業のかたわら、2020年度は主に3人の学生が活動していましたが、2021年3月をもって、学生アルバイトの2人が大学卒業を迎えたため、FaSoLabo 京都を旅立ちました。

4年前、大学進学を機に一人暮らしを始めましたが、食物アレルギーのことで周りに頼れる人がいなくなってしまい、様々な悩みを抱えていました。それと同時に、大学生になったからには今の自分にしかできないことをしたい！という漠然とした想いも持っていた中で、縁あって FaSoLabo 京都と出会いました。

FaSoLabo 京都で活動していると、自分よりもはるかに芯のある食物アレルギーの子どもや同世代の人たちに出会い、触発されると同時に、自分はひとりじゃないと思えるようになりました。そして、支援者として食物アレルギーに関わることで、自分の成長にはたくさんの人の支えがあったと知ることもできました。

一旦 FaSoLabo 京都を離れることにはなりますが、たまに顔を出せたらいいなと思っています。皆様、大変お世話になりました。

鷲 裕一

FaSoLabo 京都での活動を通して様々な出会いがあり、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。その中でも特に印象に残っているのは、2020年2月に開催したケーキビュッフェイベントです。

アレルギーっ子のお母様から、学生生活のことなどたくさんの質問を受け、初めてアレルギーっ子の親側の気持ちを知ることになりました。それまでは食物アレルギー当事者として、アレルギーっ子に重点を置いてお話をしてきましたが、親が不安に感じるポイントを知ること、親と子のどちらかに偏ることなく双方の不安や悩みに寄り添わなければならないと思うようになりました。

もっと多くの親子とお話してみたかったなと思っています。FaSoLabo 京都を卒業してしまいましたが、何かありましたらお気軽にお声掛けください。

鋤崎 理子

こんにちは！福知山公立大学 2 回生の三宅祐花です。先輩である御二方が卒業されてしまうので寂しい気持ちでいっぱいですが、来年度は普段の自分の活動と両立しつつ活動に携われるようにしたいです。私は FaSoLabo 京都の他に、地域の自主防災ネットワークや福知山公立大学の学生で結成したラジオチーム、地元京丹後市の高校教育などに携わっています。このように、アレルギーだけでなく様々な分野に興味があるので、「アレルギー×○○」といった掛け算をしながら活動を楽しんでいきたいと思っています。今後ともよろしくお祈りします！

三宅 祐花

これからも FaSoLabo 京都をよろしくお願いいたします。

中長期計画

私たちは、常に食物アレルギーの子どもと家族の支援について、子どもが真ん中の視点にたち、支援のありかたを提案（種まき）する専門家でありたいと思っています。

目標：地域社会を共に考え、変えていく行動を行う

方針 子どもが真ん中	事業	結果	目標（数値）
社会的理解	食物アレルギー 相談援助研究会	教える人⇒学ぶ人ではなく“共に学び合う”場所への転換 子育て支援・生活モデルの視点で支援のあり方を社会全体で考える場ができる	安定した研究会の運営のために、会員制の導入にむけた子育て支援者を中心として裾野を広げる。 (公開講座の定期開催 1回以上/年) 結果を決めず、地域や相手のニーズに寄り添う 自由に研究課題が挙げられる分科会がたくさんできる 困りごと・声が蓄積され、支援ツールができたがる 支援者としてもっと学びたい人への対応 小児臨床アレルギー学会・社会福祉士学会等で 1回/3年程度 研究発表できる
	調査 政策提言	食物アレルギーの子どもの日常生活について知ってもらう 企業や地域に当事者の声が届く	都道府県アレルギー疾患医療拠点病院・協議会の早期設置について政策提言する(2019年8月実施) →京都府総合計画案(2020年)の追加案件となる 福祉分野(子育て支援)からのアプローチを行う 京都府の実施する子育て支援員研修で研修が実施される 当事者の声を客観的指標にするための調査を、1回/年程度実施する 食物アレルギーに関する法律、政策提言の手法の研修を毎月実施する
	講師・講演	生活モデル・子育て支援の視点での学びの場になっている	対象者・課題ごとに対応した講師・講演を10回以上/年実施する
	つどいの広場	アレルギーの有無にかかわらず集える場所になっている イベントが、食物アレルギーに配慮された形で実施される 運営する当法人の背景・目的を知ってもらう 研究会事業と連携し、全国のモデル広場となっている	イベントの目的・対象・内容を明確にし、実施する ベビュガセラピー 8回/年 ☆ はぐもみ 1回/年 ☆ ☆終了後20分程度の交流タイムを設け、食物アレルギーについて知ってもらう場になっている 手袋シアター 1回/月 手遊び・絵本読み聞かせ 2回程度/週 ミニアレルギー講座 2回/年 はじめてセットを初利用者全員に配布する(年間100組以上)
	アウトリーチ	法人の事業・活動のアウトリーチの場になっている	オープンキャンパスを年1回開催する 企業・団体・個人とつながる 食物アレルギーの子どもの生活を知ってもらえる 異業種との協働事業の実施を年1回程度開催する 他分野からの参加者が食物アレルギーを知る機会を創出する
	ファンドレイジング		イエローシートキャンペーン(AEON)・H2O サンタ(エイ・ツー・オーテイリング)の寄付活動に参加する(2回以上/年) 企業・団体・個人とつながる 食物アレルギーの子どもの生活を知ってもらえる 楽しく寄付との関わりがもてる仕組みを創る
	SNSの発信	不特定多数の人とつながる場になっている	必要な人に必要な形で必要な情報が届く 身近なことでの気付きの機会になる ホームページ 法人概要・財務状況等は、1回/年更新する 年間活動は、1回以上/年更新する 月次予定は、1回/月更新する Facebook 支援者も活動を知ることができるように、1回以上/週、イベント告知・報告などを行う LINE 月次予定は、毎月前月中旬までに発信する 会員・一般LINEの管理を行う 【会員】フレンズ会員全員の登録を目指す・先行告知を行う 【一般】会員以外の登録者を増やす(100名以上) Instagram・Twitter 匿名性の高いSNSは活用しない。顔の見える支援を行う

成果	影響
<p>生活面・精神面を支援できる人材の学びの仕組みができる 調査・研究した事象を政策提言へと発展させられる</p> <p>相談事例集を発行する</p> <p>京都社会福祉士会と連携し、子どもの取り組み案件の1つになる 学生や福祉関係者を巻き込む</p> <p>子育て支援者への垣根を下げる 子ども包括支援センターのような場所が地域社会にできる</p> <p>食物アレルギーの相談援助ができる人材育成の仕組みができる</p>	<p>食物アレルギーソーシャルワークの仕組みができる 食物アレルギーソーシャルワーカーが増える (例) 医療ソーシャルワーカーがサポートする疾病の1つとなっている</p> <p>食物アレルギーの子どもと家族の生活の質の向上を社会全体で考えられる</p>
<p>保護者・子ども本人、医療、福祉、教育等、それぞれの場の食物アレルギー支援の過不足を客観的に評価し見える化する 当事者) 自分たちの声が届いた実感を持ってもらえる 支援者) 自分たちができること、すべきこと、しないといけないことに気付いてもらえる</p> <p>食物アレルギーの相談支援事業を行政(協議会)が行っている 幼・保・学校、公・私に関わらず、子どもの安全を担保できる受け入れ側の研修をする仕組みができる 保護者一人ひとりが個別に交渉するのではなく、相互に分かりやすいシンプルな仕組みができる</p> <p>職員全員が調査・政策提言・食物アレルギーを取り巻く環境の周知ができるようになっている</p>	<p>教育・社会生活の場でのノーマライゼーションが実現される</p> <p>医療・福祉・教育・防災が連携できている</p> <p>一地域での取り組みが、広域から全国へ広がる</p>
<p>食物アレルギーを身近に感じる</p> <p>社会的接点</p> <p>理解者・応援者が増え、第三者が広く食物アレルギーを伝える役割を担う</p> <p>食物アレルギーを自分事として捉えてくれる</p>	<p>つどいの広場全国協議会において支援者研修が実施される 地域の差がなくなるための、全国で統一のガイドラインができる 全国のつどいの広場がアレルギーに配慮された運営となる</p> <p>利用者支援事業(地域子育て支援拠点事業)の対応が食物アレルギーについても実施される</p> <p>当事者の主体的活動の場となる</p> <p>食物アレルギーの子どもと家族の生活の質の向上を社会全体で共に考えられる社会的寛容が進む</p> <p>食物アレルギーへの関心を示す人が増える</p>

方針 子どもが真ん中	事業	結果	目標（数値）
当事者支援	ニュースレター	子育て支援の場にニュースレターが置かれている FaSoLabo 京都との保護者の接点（入口のツール）になっている	4回／年発行する 2020年度（移行期） 4～6月号、7～9月号、10～12月号、1～3月号 2021年度以降は季刊発行 5～7月号、8～10月号、11～1月号、2～4月号
	サポートデスク (居場所作り)	<p>食物アレルギーの生活面・精神面の相談ができる場所が提供できる</p> <p>食物アレルギーの子ども同士・保護者同士がつながれる場所になっている</p> <p>アレルギーフリーの地域行事・社会体験などに参加できる場所である</p> <p>つどいの広場の人もサポートデスクのイベントに参加している（地域の人への垣根を低くする）</p>	<p>イベントの目的・対象・内容を明確にし実施する</p> <p>キッズチャレンジ</p> <p>パティシエくらぶ 1回／年 ☆</p> <p>防災ポシエット 1回／年</p> <p>夏祭り（たこ焼き屋さん） 1回／年</p> <p>子ども会議 3回／年</p> <p>オープンキャンパスお店屋さん 1回／年</p> <p>ばーばのおやつ 1回／年</p> <p>お芋ほり 1回／年</p> <p>クリスマス会 1回／年</p> <p>BAN ばん パーンと伴ごはん 3回／年</p> <p>親カフェ 6回以上／年 ♡</p> <p>ふわふわ（貸し切りの日） 1回／年 ◎</p> <p>☆当事者優先 ♡当事者対象。伴ごはん、細川さんおしゃべり会、サルベージパーティ、ティーンズミーティング等と組み合わせる ◎テーマ（発達・アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・はぐもみ・ベビーヨガセラピー）を決めて実施</p>
災害支援	<p>フレンズ会員に緊急時安否確認システムに登録してもらう</p> <p>自助の大切さを伝える講座を開催できる</p> <p>関連する会議に参加している</p>	<p>会員更新時に、防災グッズ等を渡す 1回／年</p> <p>サポートデスク事業（キッズチャレンジ）で地域住民（子ども）と共に防災ポシエットを作る 1回／年</p> <p>京都 DWAT の研修・訓練に参加する（社会福祉士有資格者） 2回以上／年</p>	
支援者支援	出張アレルギーの学び舎	<p>子どもに関わる人に講座の提供ができる</p> <p>当事者と支援者が相互の立場や思いを知り合える場所の提供ができる</p>	<p>支援拠点の多様なニーズに応える講師を確保できている</p> <p>日本アレルギー学会専門医 10名以上</p> <p>小児アレルギーエドゥケーター 2名</p> <p>栄養士・管理栄養士 2名以上</p> <p>社会福祉士 5名以上</p>
	アレルギー大学	2019年度で終了 研究会事業でのソーシャルワーカーの育成に方針変更	_____
組織運営	組織基盤強化	<p>運営に関するスキルを獲得する</p> <p>NPO 法人について知る</p> <p>ありたい姿、目指す姿、私にとってのFaSoLabo 京都を考える</p> <p>食物アレルギーについての知識・理解を学ぶ場がある</p> <p>ソーシャルワークスキルを学ぶ場がある</p> <p>社会のしくみ（自治体等の公的制度など）を知る</p>	<p>定例ミーティングで困り事・課題が検討できる 1回以上／月</p> <p>全員が事業全体を見渡せ、業務の相互補完ができている 残業0</p>

成果	影響
<p>“独りじゃない”ことが、当事者に伝わる ⇒ イベント等への参加の機会につながる</p> <p>食物アレルギーのピアサポートの入口として問い合わせがくる 当事者が知りたい身近なことを知ることができる</p>	<p>当事者－社会 双方向の流れができる</p> <p>当事者への共感が伝わる</p>
<p>親支援・子ども支援としてセーフティネットの役割が果たせる</p> <p>保護者にとって息抜きできる居場所になっている</p> <p>子どもにとって夢や希望が描ける場所になっている</p> <p>親子にとって安心・安全に過ごせる場所になっている</p>	<p>地域社会で、食物アレルギーに配慮された場所作りやイベント運営がされている</p> <p>フレンズ会員がサポーター会員となり次世代を支えている 地域のサポーター会員が増え、支える寄付が集まる</p>
<p>各家庭で、被災時の準備（自助）ができている</p> <p>地域資源（講座主催団体・参加個人）の再資源化や、自分たちが居住する地域の防災対策を知り、被災時に備えられる（互助・共助）</p> <p>京都 DWAT の対象案件に食物アレルギーが組み込まれ、対応ができている（公助）</p>	<p>地域防災対策への波及効果</p> <p>京都府域の他団体（福祉関係）とのネットワーク構築</p> <p>京都府との連携構築</p>
<p>京都府内各所に支援拠点（団体）ができている 10 箇所以上</p> <p>支援拠点（団体）同士のネットワークが構築でき、相互に助け合うことができる 支援拠点（団体）の相談事例、困りごとを研究会事業で検討ができている 支援拠点（団体）の要望に沿った中間支援ができている</p>	<p>FaSoLabo 京都が特別な場所ではなく、あちらこちらに居場所ができる</p>
<hr/>	<hr/>
<p>事業運営のための課題・目標を共有するための研修が行える 職員が理事会に出席し、運営について学ぶ機会にする</p> <p>出張アレルギーの学び舎等に職員が参加し、食物アレルギーの知識を学ぶ 相談援助研究会に職員が参加し、ソーシャルワークスキルを学ぶ</p> <p>外部研修へ参加できる体制ができる</p>	<p>皆が柱の組織 ONE TEAM</p>

組織

【理事会】

理事会は、ソーシャルワークの専門家・アレルギー専門医・保育士・税理士・食物アレルギーの子どもの保護者など多様な分野の者で組織されています。当法人の理念に基づいて、法人の活動計画や事業予算を策定します。

理事は、専門分野に合わせて法人の個々の事業への管理監督の役割も果たし、監事は、活動・運営を精査いただいています。

また 2016 年度からは、認定 NPO 法人となったことから、京都市・京都府の規定により外部監査役に福知山公立大学地域経営学部准教授 杉岡秀紀氏に審査をお願いしています。

理事長 空閑浩人

副理事長 青山三智子

FaSoLabo の活動に参加することで、病院の中では見えないことをたくさん勉強させていただいています。誰もがより不安を少なく、楽しく生活できるよう、微力ながら一緒に取り組んでいきたいと思っています。

副理事長 上原久輝

主に地域医療を担う立場で、食物アレルギー児の診療に携わっております。FaSoLabo 京都の活動に参加することで、食物アレルギーおおよびその家族が安心して暮らせるような社会になるよう、少しでも貢献できればと思います。

理事 鷗川真悟

お母さんだけでなく、お父さんたちも子育てについて学んだり、話したりできる交流の場を作りたいと思っています。父親としてまだまだ未熟ですが、みなさんと一緒に成長していきたいと思っています。

理事 小谷智恵

新体制世代・子ども自身の新たな視点での取り組みは、未来を変える・描く力があると期待しています。

迷った時、困った時には、精いっぱいサポートしますので、のびのび挑戦を続けてください。

理事 元木啓雄

税理士として、当法人の財務会計面でのサポートをさせていただいております。また、食物アレルギーの子供を持つ親として、FaSoLabo 京都の活動により子供たちがより安心・安全な環境で過ごせるようお手伝いできればと思っております。

理事 吉永裕通

ぴいちゃんねつの時代からお手伝いや応援させていただいております。まだまだ一般的ではない食物アレルギー、子どもたちとその環境を少しでも変化できたらと思っています。

監事 河合将生

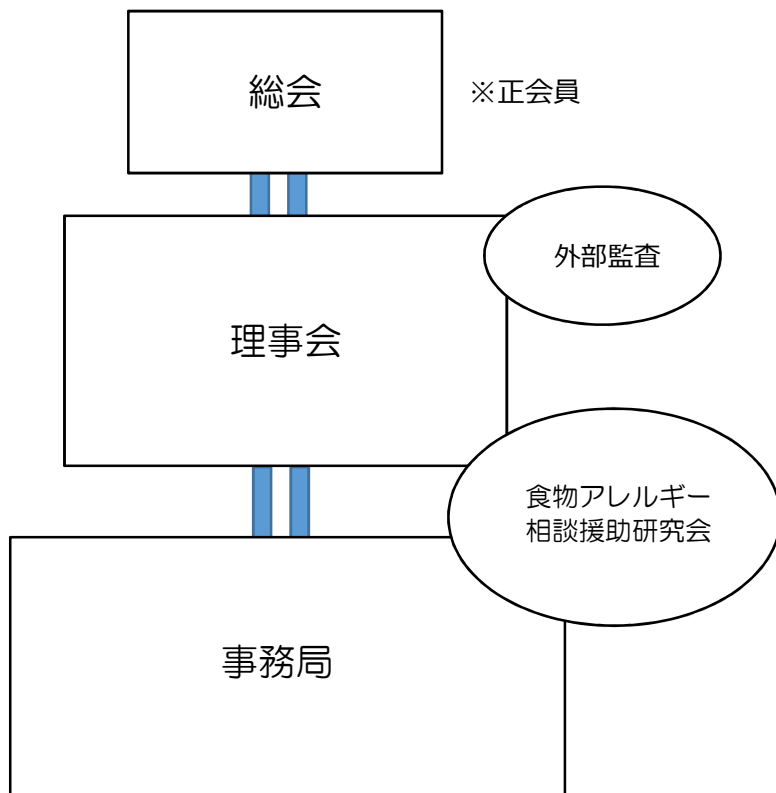
子どもが真ん中の視点に立ち、地域社会を「共に」考え・変えていく活動を FaSoLabo 京都自身も「共に学び考え」ながら皆さんと進めていくことができるよう、監事の立場から組織づくり・運営に関わらせていただいています。コロナ禍での変化への対応など、困難な中でも丁寧な関わりとしなやかさ、チャレンジを大切にしていきたいですね。

外部監査 杉岡秀紀

旧称ぴいちゃんねつの時代から団体のビジョンに共感し、外部評価の伴走をさせてもらっています。専門は地方自治、NPO 論で、現在、(特活)きょうと NPO センターフェロー、(特活) 京都子どもセンター監事なども務めています。二児の父。

【組織図】

当法人は、以下のような組織図で活動を行っています。



活動計算書

【経常収益】

受取会費		475,000
受取寄付金	受取寄付金	287,610
	ボランティア受入評価益	237,547
	商品等受入評価益	168,271
受取補助金等	受取補助金	1,833,000
	受取助成金	480,000
事業収益	業務委託料	6,896,364
	利用者負担金	127,562
	講師料	60,000
	研修会受講料・研修会テキスト代	30,400
その他収益	受取利息	14
経常収益計		10,595,768

【経営費用】

事業費	人件費	2,912,381
	ボランティア評価費用	237,547
	商品等評価費用	168,271
	その他経費	5,421,073
管理費	人件費	1,744,174
	その他経費	317,770
経常費用計		10,801,216

当期経常増減額	△205,448
経常外収益	29,980
当期正味財産増減額	△175,468
前期繰越正味財産額	△782,529
次期繰越正味財産額	△957,997

貸借対照表

【資産の部】

流動資産	未収金	1,986,141
	現金・預金	374,248
	前払費用	165,000
	棚卸資産	56,900
	仮払金	12,300
	流動資産合計	2,594,589
固定資産	差入補償金	300,000
	固定資産合計	300,000

資産合計 2,854,589

【負債の部】

未払金	1,364,797
短期借入金	1,928,107
前受金	547,346
預り金	12,336

負債合計 3,852,586

【正味財産】

△957,997

FaSoLabo 京都の事業・活動は、「食物アレルギーの子どもと保護者のQOL（生活の質）の向上」を目的に行っています。これには「当事者支援」と「支援者支援」「社会的理解」3つの支援が大切だと考えています。安心して、継続した支援を行うには、皆様からの資金面でのサポートが大きな力となります。

「フレンズ」は、

「利用者」と運営する「スタッフ」という一方的な関係ではなく、「一緒に活動していく仲間でありたい」という思いを込めて命名しました。実は、他にも「ファミリー」などの名称案も出しましたが、内輪で閉じこもることなく、アレルギーの有無に関係なく仲間の輪を広げていけるようにという思いも込められています。



種別	名称	会費	特徴	
正会員		10,000円	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年4回郵送されます。 ●会員・フレンズ限定LINEに登録でき、いち早くイベントの案内・申込みが可能です。会員限定イベントにも参加できます。 ●緊急時安否確認システムに登録できます。 ●イベントや講座に無料または割引料金で参加できます。 ●当法人の総会での発言権・議決権を有し、当法人の事業・活動を実施・運営することができます。 	
フレンズ	個人フレンズ	3,000円	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年4回郵送されます。 ●会員・フレンズ限定LINEに登録でき、いち早くイベントの案内・申込みが可能です。会員限定イベントにも参加できます。 ●緊急時安否確認システムに登録できます。 ●イベントや講座に、無料または割引料金で参加できます。 	
	団体フレンズ	5,000円 ※イベント参加は1回につき2名まで。		
サポーター	個人サポーター	個人：3,000円～ (以降1,000円単位で任意)	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年4回郵送されます。 ●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。 ○イベントや講座の参加に対しての割引はありません。 食物アレルギーの子どもと保護者を支援したい！という方向け。 	
		団体：5,000円～ (以降1,000円単位で任意)		
	企業サポーター	企業：30,000円～ (以降1,000円単位で任意)		<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年4回郵送されます。 ●サポートデスクを商品のモニタリングや広報などに利用できます。 ●ニュースレターへ無料で広告を掲載できます。 ●FaSoLabo 京都のホームページにバナーやリンクを掲載できます。 ●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。
		個人事業主：10,000円～ (以降1,000円単位で任意)		

※FaSoLabo 京都は2017年1月より認定NPO法人となりました。認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すことによりNPO法人の活動を支援することを目的としており、下のような税制上の優遇措置を受けることができます。

地域のためにできること 寄附という応援のかたち 京都市

京都市では、市民活動を市民が支える社会の構築に向けて、寄附を通じた市民の社会参加と寄附を財源とするNPO法人の活動を促進しています。

認定(仮認定)NPO法人への寄附者に対する税制上の優遇措置

認定(仮認定)NPO法人とは、NPO法に定める基準に基づき、所得税の寄附金控除等の対象となるNPO法人として所轄庁が認定(仮認定)したNPO法人です。

国税と地方税あわせて、寄附金額の最大50%が税額から控除されます。

所得税額の控除額
→(寄附金額-2,000円)×40%

住民税額の控除額
(京都市と京都府がともに条例で指定している場合)
→(寄附金額-2,000円)×10%

個人が認定(仮認定)NPO法人に1万円寄附した場合の税額控除例 「寄附金控除」を受けるためには、確定申告を行う必要があります。



あなたも「寄附」というかたちでNPO法人の活動を応援してみませんか。



NPO法人にとっての寄附とは？

社会の様々な課題の解決に向けて公益活動を行うNPO法人にとって、財政基盤の安定化を図ることは重要な課題であり、特定の財源に依存しない財政面での自立につながる寄附金は、貴重な財源の一つとなっています。

詳しくは、「京都市自治会・町内会&NPOおうえんポータルサイト」を御覧ください。

京都市 NPO おうえん [検索](#)